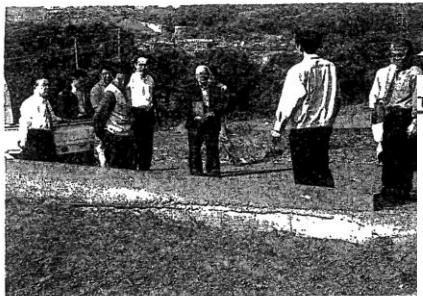


(7) 2006年(平成18年)10月19日(木曜日)



エコファーマーのほ場を見学する委員ら=富士岡

**正 ハ ブ ラ イ**

地場産品学校給食導入協 食  
地産地消と食育の推進を目指す富士市学校給食地場産品導入協議会（会長・初鹿章三富士中央青果社長）は十日、活動の一環として市内のエコファーマーを訪問、実践者の取り組みを踏まえ、食の安全・安心を考えた。

・エコファーマーは、たい肥をはじめ有機質肥料を多く用いた土作りと化學肥料の低減、農業の使用低減を努める生産者をいい、市内では三十一戸が認定を受けている。この日は、ハウレンソウやコマツナなどを

地場産品学校給食導入協  
会 食の安全学ぶ

私たちは、この問題に対する理解を深めた。コフアーマーに対するに発足した。

現地交流のほか、エコファーマーと  
農産物の学校給食への導入、地場産品を使  
った親子料理コンテストの開催と料理理  
ト基にしたレシピストを計画していく。  
今後は、二十九日(日)に、農林事務所  
による親子料理コンテストを計画してい

# 地場産物の学校給食導入拡大目指し 協議会 生産者と交流、意見交換

した力が畠の状況を視察。半田さんなり、化学肥料使用の二割程度軽減や有機肥料、防虫ネットの使用など環境に配慮した栽培方法について説明を受けた。半田さんは「土作りができるいは雑草も出ない」草の種をこぼさないで虫を防げる」などと説明する。その後、市公設地方卸売市場に行われた意見交換会では、県政をやかましいコメントに位置づけられ、県と同協議会の共催で、生産者たちも参加して行われた。平井憲明農林事務所長のあいさつの中で、市内小中学校三十九校を対象

2006年（平成18年）10月20日（金曜日）

## エコラーマーの紹介パネル 全小中学校へ年度内配布

も含め、生産者の写真などを掲げたパネルを作成し、市内全小中校に今年度内に配置することを決定した。